

インフルエンザ診療Next : トピックス

流行拡大中、長崎県が注意報レベルに

インフルエンザ脳症が6例発生、5例は10歳以下

2017/12/19

[インフルエンザ診療Next取材班](#)

インフルエンザの流行が拡大している。12月13日までの1週間（第49週）に全国の定点医療機関を受診した患者数は2万人を超え、定点当たり4.09人と前週の2.58人から増加した。国立感染症研究所によると、推計患者数は約20万人で、うち9歳以下が40%、10歳代が20%と低年齢層を中心に感染が広がっている。重症例も目立ってきており、インフルエンザ脳症は48週までに6例が報告され、うち5例は10歳以下だった。

流行地域も拡大し、全域で流行の目安である定点1人を超えた自治体は45都道府県となった。長崎県は定点報告が10.51人と注意報レベルとされる10人を超え、今季初めての注意報を発表した。沖縄県（7.07人）、大分県（6.84人）、愛媛県（6.46人）、宮崎県（5.90人）、福岡県（5.79人）などと続いている。

感染研によると、推定患者数は約20万人で、9歳以下が40%と最多だった。10歳代が20%、30歳代と40歳代が10%で続いている。20歳代、50歳代、60歳代、70歳以上はそれぞれ5%だった（図1）。



図1 年齢層別に見たインフルエンザ推定患者数（国立感染症研究所の感染症発生動向調査を基に作成）

インフルエンザ脳症の報告も

感染研がまとめている感染症発生動向調査を基に、全数把握疾患である急性脳炎のデータをピックアップし、インフルエンザが原因の症例を集計した結果、第48週までの累計で、インフルエンザ脳症例は6例となった。第44週（10月30日～11月5日）以降、5週連続で報告されている。報告時死亡例は、出ていない。

年齢別では、1歳が2例、6歳が1例、10歳代が2例と1歳以下が多く、50歳代も1例報告されている。ウイルスのタイプは全てA型だった。

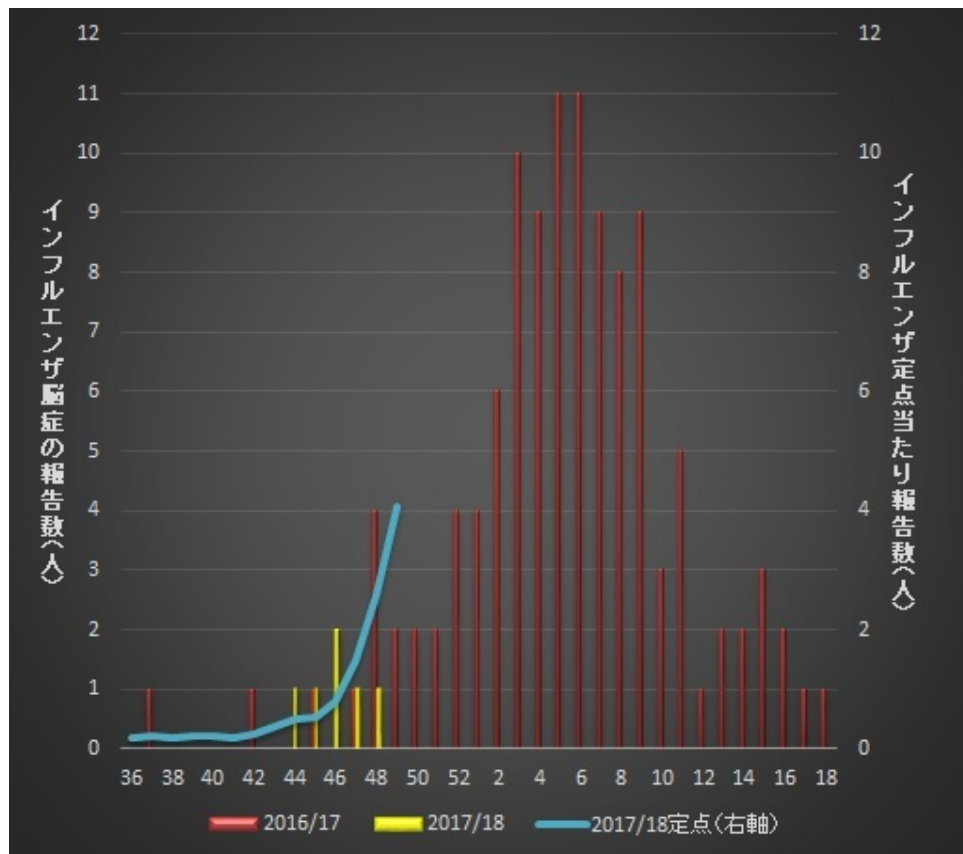


図2 インフルエンザ脳症の報告数の推移 (国立感染症研究所の感染症発生動向調査を基に作成)

なお、インフルエンザの流行ウイルスは、感染研のインフルエンザウイルス分離・検出速報によると、直近の5週間（45～49週）でAH1pdm09が164件で最多だった。B型が54件、AH3亜型は31件だった。AH1pdm09が66%を占めており、流行の主流となっている。ただし、地域によってはAH3亜型が主流のところも散見されており、注意が必要だ。